

平成30年度 ニホンジカ捕獲の実施状況について

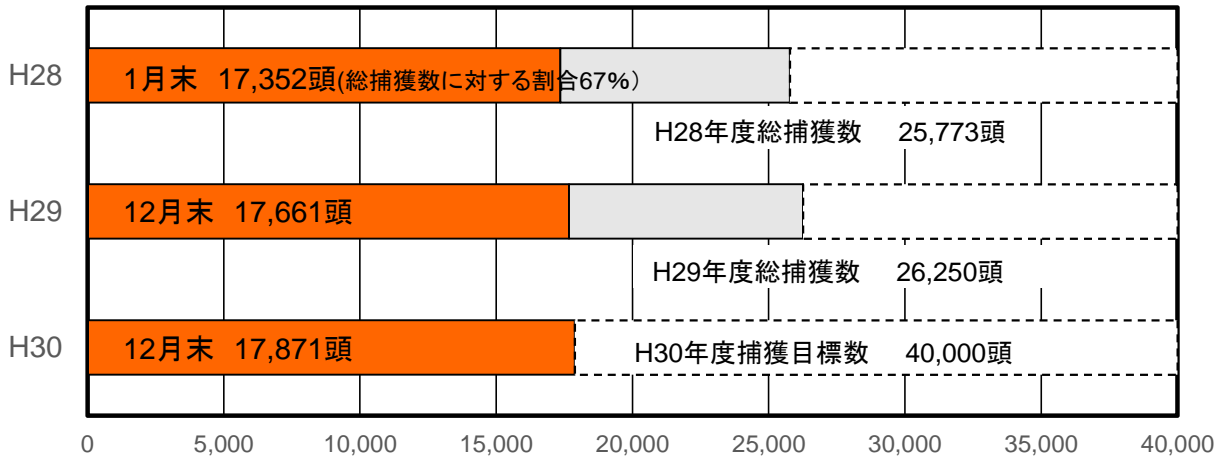
目標

第二種特定鳥獣管理計画(第4期ニホンジカ管理)に基づく、平成29年度のニホンジカ捕獲目標頭数は、長野県全体で40,000頭となっている。

【管理ユニット別捕獲目標】

関東山地:4,000頭 八ヶ岳:24,000頭 南アルプス:8,000頭 その他:4,000頭

捕獲実績



地振別捕獲数 単位:頭

地振	H29.12月	H30.12月	前年度同期比	地振	H29.12月	H30.12月	前年度同期比
佐久	4,301	4,560	259	木曾	125	149	24
上田	2,189	2,185	-4	松本	2,031	1,654	-377
諏訪	2,704	2,643	-61	北アルプス	69	77	8
上伊那	2,345	2,474	129	長野	793	857	64
南信州	3,089	3,254	165	北信	15	18	3
				合計	17,661	17,871	210

※管理ユニット別捕獲数内訳

関東山地 2,488頭 八ヶ岳 7,590頭 南アルプス 6,073頭 その他5ユニット 1,720頭

現況

- H30.12月末現在では、個体数調整で17,871頭捕獲。(H29.12末比 101%)
- H29.12月末と比較すると、増加(5地振)、減少(2地振)、横ばい(3地振)であった。
- 年末の積雪が少なかったこと等が影響し、関東山地、八ヶ岳の2管理ユニットは昨年同時期の捕獲数を下回った。
- 南アルプス管理ユニットの捕獲数は昨年同時期を上回った。
- 現状のまま推移すると、H30年度の総捕獲頭数はH29年度と同様となる見込み。

ニホンジカ捕獲対策の推進に向けた検討

鳥獣対策・ジビエ振興室

1. 地域別のニホンジカ被害の状況

シカによる農林業被害額の増減率の平均

地域	南アルプス管理ユニット			八ヶ岳管理ユニット				
	諏訪	上伊那	南信州	佐久	上田	諏訪	松本	長野
増減率	86%	92%	90%	99%	99%	86%	93%	99%

※過去3か年（平成27年～29年度）の前年に対する増減率の平均

現状：被害額は、防護柵等の被害対策、捕獲対策等で減少しているが、捕獲目標に達していない八ヶ岳管理ユニットでは、捕獲目標に達している南アルプス管理ユニットに比して、被害額の減少が小さく、被害は高止まり傾向にある。**今後も捕獲の推進が必要。**

2. 捕獲数減少の原因とその対応

(1) シカの動きの変化（八ヶ岳管理ユニット）

現状：捕獲者からのシカとの遭遇機会の減少情報等から、警戒心の高いシカの増加等による影響が課題となっている。上伊那地域では、シカとの遭遇機会を増やすため、経験則などからシカが移動しているような箇所を想定して捕獲箇所を移動させる取組により、捕獲数が前年に比べ1,072頭（前年比30%増）回復した（H28実績3,557頭→H29実績4,629頭）

対応：H30年のセンサーカメラによる生息状況調査（南牧村、茅野市、下諏訪町、松本市）を実施。捕獲者の聞き取りではシカを多く見かけないとされた箇所に設置したセンサーカメラの画像を分析したところ、シカは捕獲作業などの人の移動を避けて森林内を行動していることが示唆された。

- ①センサーカメラ調査は、市町村等とH30調査結果を共有し捕獲に活用するとともに、平成31年以降も継続実施
- ②上伊那の成功事例等の市町村担当者等の研修会等で共有
- ③県下全域の生息状況調査（糞粒法等）、全県のシカの生息状況等を把握。

(2) 捕獲手法の高度化

現状：わなによる捕獲が全体の9割を占める中、冬期の積雪のある寒冷な時期には凍結の影響でわな捕獲が進まない。冬期のわな捕獲が可能となれば、2,000頭程度の捕獲数の増加が期待される。警戒心が高い個体の捕獲や、高標高地域等での捕獲を促進するためには、高度な捕獲手法や適切な捕獲作業の管理体制が必要となる

対応

- ①H30年くくりわなの凍結防止技術に関する実証捕獲調査を実施。実証結果は研修等で市町村等に周知し、来年度以降の捕獲に活用
- ②H30から開始している高度捕獲技術者養成事業において高度捕獲技術者の養成を開始（4か年15名）

(3) 狩猟免許所持者数の変化

	佐久	上田	諏訪	上伊那	南信州	木曾	松本	北ア	長野	北信	計
H25	554	362	280	538	723	299	725	208	677	161	4,527
H29	476	322	273	435	676	286	700	203	701	132	4,285
H29/H25	85.9%	90.0%	97.5%	80.9%	93.5%	95.7%	96.6%	97.6%	103.5%	82.0%	94.7%

※わな猟免許者＋第1種銃猟免許者数の合計

現状：個体数調整による捕獲は、主に各地域の猟友会が市町村の依頼により行っている。捕獲者数の減少が捕獲数の減少には直結しないが、今後も減少と高齢化が続くことが予測され、捕獲者数の維持は重要。

対応：ひきつづき、新たな免許取得者をハンターデビュー事業などで掘り起こしを進める。